

動植物の名称（和名）にはさまざまな由来があります。動植物の和名は通常カタカナ表記をしますが、カタカナでは由来がわからないものも多いと思います。牧野の図鑑のように、漢字表記（併記）してくれると親切だと思います。

たとえば、「クサレダマ」という山野草がありますが、これはカタカナ表記だけだと「腐れ玉」と解されて、実にみじめな和名です。漢字では「草連玉」という美しい表記になり、面目を一新します。マメ科の「レダマ（連玉）」の花に似ている草（野草）という意味なのです。先日植物園の「ロックガーデン（現在は非公開）」で出会った野草の和名も、はじめは意味がわかりませんでした。

名称板には「ムサシアブミ」と書いてあります。他にも学名、科名、分布域などは詳しく記されていましたが、漢字表記はありません。「ムサシ」は「武蔵」だろうと思いましたが、分布域は特に関東平野に限定されているわけでもないようです。「アブミ」は馬具の「鐙」という文字しか思い当たりませんでした。帰宅後にしらべてみると、やはり「武蔵鐙」で正しいとわかりました。是非とも漢字表記を併記してほしいものです。

ムサシアブミ *Arisaema ringens* は、花を見て一目でサトイモ科の植物とわかる姿です。この花の形態は「仏炎苞（ぶつえんほう）」と呼ばれ、マムシグサやウラシマソウなど、サトイモ科の植物に共通した特徴です。ムサシアブミは仏炎苞の形が「あぶみ（鐙）」に似ているのだそうです。鐙というのは、乗馬の時に脚を乗せる馬具のことです。武蔵國で良質の鐙を生産していたことに由来するのだそうです。私にはどう見れば鐙に似ているのか、わかりませんでした。

（2025年4月上旬／文京区・小石川植物園）

